

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0 1 9 2 9 0 2 0 6 2		
法人名	株式会社グレース		
事業所名	グループホーム あい		
所在地	旭川市川端町4条8丁目2番18号		
自己評価作成日	平成27年3月11日	評価結果市町村受理日	平成27年5月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0192902062-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 27 年 3 月 19 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「お互いの存在を喜びとし、弱さは助け合うための美しいもので、互いを大切なものと感じ合えるよう生活します。」の(あいの理念)に基づき、入居者の尊厳を尊ぶ事を具体化した「介護の目標」と「介護の原則」に即した介護が出来るよう出勤者全員で毎朝唱和しながら介護業務に当たっています。入居者が安心・安全でゆったりとした気持ちで過ごせる空間づくりはもちろんですが、充実した時間が過ごせるように午前午後2回の体操やリハビリ、レクリエーションの時間も持っています。また、施設内に籠る事がないように、夏場はテラスを設け外気浴や散歩、ピクニック等季節ごとの行事だけでなく、バスや多くの車両も活用し、四季を通じて外の空気に触れる機会を多く持つようにしています。運営母体にキリスト教会も関係している事から、チャーチスクールの子供達や、外国からのお客さんなどとも交流をしています。さらに希望者は外出の一環として毎週「日曜礼拝」に参加し、礼拝参加者の歓迎を受けている。さらに、町内会の皆さんとも交流があり、ボランティアで来て下さる方、入居者と一緒に行事に参加下さる方も居り、今後も地域に根ざした施設を目指したいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します									
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように		
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度		
			3. たまにある				3. たまに		
			4. ほとんどない				4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない		
			4. ほとんどいない				4. 全くいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が						
			2. 利用者の2/3くらいが						
			3. 利用者の1/3くらいが						
			4. ほとんどいない						

有限会社 ふるさ

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「あいの理念」に基づき具現化した（介護の目標や介護の心構え）を毎朝勤務職員で唱和し共有と実践に取り組み、業務に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域町内会の一員として、町内会員を招いて毎月のカラオケ交流会や、そば打ち、絵本の読み聞かせなどを通して交流を深めている。また日常的にも入居者と散歩の時などこちらから明るく積極的に挨拶をしている。更に避難訓練には町内の方も参加いただいている。		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前「認知症サポーター養成講座」を包括支援センターと地域で共同開催した事もあり、今後も地域に情報発信していきたいと思っている。更に町内会の役員さん等からも情報の発信をして頂いている。		
4		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の割合で開催している運営推進会議では事業所の取り組み内容の報告や各種情報の発信、具体的な課題への意見交換など話し合いを行っており、そこでの意見はサービス向上に活かされている。		
5		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市役所職員も参加頂いており、意見の交換などしている。また、施設運営上解らない事があれば「指導監査課」に確認・相談している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングやシミュレーションを通じ、身体拘束の具体的な内容や行為について学び、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7	7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングやシミュレーションを通じ、高齢者虐待の具体的な内容や行為について学び、事業所内で虐待をしないケアに取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングやシミュレーションを通じ、高齢者の権利擁護や成年後見制度の具体的な内容やについて学び、事業所内で個々の必要性を鑑みかつ利用出来る様取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際には代表と管理者が、関係者に説明し、話し合いをもち、利用者やご家族に安心して頂いております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているのと、苦情相談報告書も逐一職員に開示し、入居者や家族が求めている事の情報職員全員が共有し、運営に活かせるようにしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回のスタッフミーティングで日頃の疑問や問題を感じている事を訊くなど話し合いの場を設けています。また、毎日のミーティングでも何かあれば職員の意見や提案を聞いています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の奨励金など、やりがいを持てるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表による内部研修やスタッフミーティングでも介助講習を行っており、来年度は必要に応じ各種研修に職員が参加できればと思っている。さらに介護職員に必要な資格の取得によるスキルアップも資格取得奨励金などで奨励している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	一昨年より、グループホーム協会に加盟し、ネットワークづくりがしやすい環境になった。地域包括支援センター主催の勉強会や懇親会には参加するようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15	8	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の過去の状況をフェースシートや、家族や本人の聞き取りを基にニーズを把握するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前や契約時に、また入所されてからも本人や家族が困っている事や不安に感じている事があれば相談に乗り関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に本人と家族が安心できるサービス計画の作成に努め、馴染みの環境や通いの場にも可能な限り継続できるよう支援している。馴染みの病院や美容室など。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は介護を受ける側が「恥ずかしい、申し訳ない」などの気持ちを持っている事を理解し、「介護させて貰っている」という気持ちで接するよう代表からも指示を受けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプラン作成時や更新時、また普段の訪問時にも家族のケアに対する要望や意見を聞き、家族と共に支え合えるように努めている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に本人と家族が安心できるサービス計画の作成に努め、馴染みの環境や通いの場にも可能な限り継続できるよう支援している。馴染みの病院や美容室など。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なるべく居室に閉じこもらないように、午前午後の体操やレクリエーションを行い、利用者同士の関わりも持てる様支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	必要時に本人と家族が意欲向上と安心できるケアプラン作りに努めている。もちろん本人と家族からの要望を基に本人本位のケアの検討を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の過去の状況をフェースシートや看護記録、家族や本人の聞き取りを基にニーズを把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者個人の状態をアセスメントシートに記入し、現状把握に努め、1日4回の打ち合わせで入居者の変化や連絡事項の確認と情報共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要時に家族・医師など関係者と連絡をとり、担当者会議として開催し、現状に即したプランを作成するように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者個人の状態をアセスメントシートに記入し、現状把握に努め、1日4回の打ち合わせで入居者の変化や連絡事項の確認と情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な対応を行っている。例) 別の施設の家族に会いにゆくなど。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の方々と交流し、カラオケや山菜取りなどを一緒に行う支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人と家族が安心できるサービス計画の作成に努め、馴染みの環境や通いの場にも可能な限り継続できるよう支援している。訪問診療を希望された入居者は月2回の訪問診療を受け、状態変化時には速やかに診療を受けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療機関と連携し、訪問看護事業所から月4回程度の看護師の訪問を受けており、何かあれば看護師と都度相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時も病院のソーシャルワーカーや病棟看護師と情報交換を行い、入退院計画や治療計画の情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の状態変化時に、家族・医師・施設職員でその後の対応について話し合いをする場を持っている。重度化した場合や救急時についても話し合っている。さらに家族が希望すれば「看取り介護」についてチームで取り込んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に対応できるようシミュレーションやミーティングなどで都度話し合い、訓練している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防避難訓練の実施や非常災害時の食料備蓄なども行っており、ホームの周りの町内会の方の協力も取り付ける等協力体制を築いている」。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護の原則、介護の心構えとして毎日朝礼で唱和し、介護される側を一方的な立場に置かない介護や、言葉かけにも心掛けている。さらに代表からも職員同士でも丁寧な言葉遣いをするよう指導も受けている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	したいことや、やってみたい事、食べたい物などの希望を聞く様に心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ほんにんの意見を尊重し、体調や環境を考慮しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴後の着替え時、また外出時など身だしなみやおしゃれが出来る様支援しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事として、おはぎや稲荷寿司作り、お弁当作りやお節づくり、手作り味噌や鯨漬けなど一緒に個々の能力に応じて準備・片づけをして頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の水分摂取量や食事量は各チェックシートでチェックし、入居者の体調や習慣も鑑みて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアや声掛けを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間ごとだけではなく、それぞれに応じた柔軟な支援に取り組んでいる。ADLを活かすようにトイレ利用が出来る入居者はなるべくトイレを利用して貰っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の奨励や食事でも食物繊維がたくさん摂れる献立を主に提供しています。朝夕の体操や個別リハビリも行い、便秘改善を目指しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低でも週2回の入浴日を設け、対応しているが、それ以外の方も体調や安全をみながら入浴できるように支援している。更に入浴拒否がある入居者は入浴日に関係なく声掛け対応をしている。排泄後に洗身が必要な方も対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の以前からの生活習慣や体調を見ながら安心して休めるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の増減時には連絡事項として周知し、体調を見ての頓服や減薬も医師や関係者と連絡を取りながら介助支援しているし、状態の記録などにも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	民謡や童謡が好きな入居者には音楽を。手作業が出来る入居者には手作業のお手伝いなどをして頂いている。また、食事準備の野菜切や後片づけも手伝って貰っている。煙草や飲酒も無理のない範囲なら楽しんで頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を聞き川沿いを散歩したり、歩行訓練を兼ねての散歩も毎日行っている。更に床屋や美容室への外出支援も行っており、その他にも四季を通じた外出支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	グループでの外出やスーパーへの買い物など、好みや状態に応じた柔軟な支援に心掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人個人の写真で年賀状を作ったり、家族や友人からの手紙のやり取りには職員がお手伝いをして対応している。また、家族に電話を掛けたり受けたりの支援も行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感や季節感に気を遣いながら居心地の良い空間づくりを行っている。お風呂場には暖簾をつけ、富士山の絵も貼っている。季節ごとにひな飾りや五月人形も飾っており、季節感を大事にしている。トイレや共有通路はセンサー式の照明がついており、刺激や混乱が無い工夫がされている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には食卓テーブルとは別に、自由に使えるテーブルとソファが置いてあり、自由に使えるよう配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人が安心して使える様、馴染みの家具や装飾品を使ってもらっている。仏壇を居室に持ってきている方々もいて馴染みの空間で安心して頂いている。居室の入り口には暖簾や表札も付け、個人の住まいとしての工夫もしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示や浴室の暖簾など安全かつ解りやすい表示を工夫している。		